

交換留学（派遣）帰国報告書

.....

留学先大学 : ソウル国立大学校
留学先での所属学部・研究科 : 法科大学
留学先での在籍身分 : Exchange student
留学期間 : 2016 年 3 月～ 2016 年 12 月
神戸大学での所属学部・研究科 : 法学部
学年（出発時） : 3
本報告書記入日 : 2016 年 12 月 22 日

1. 留学先大学について

1-1. 留学先大学の「学期」について

学年開始月日 : 3 月 2 日

学年終了月日 : 12 月 22 日

学期 :

① 3 月 2 日～ 6 月 13 日

② 9 月 1 日～ 12 月 22 日

③ ____ 月 ____ 日～ ____ 月 ____ 日

④ ____ 月 ____ 日～ ____ 月 ____ 日

1-2. 留学先大学の特長、人気のある分野等

ソウル大学校は韓国有数の国立大学であり、服飾学部や音楽学部などの多様な学部も備えた総合大学です。語学堂という韓国語学校のような施設もあり、留学生も多く通っています。

1-3. 留学先大学のサポートについて記入してください。

語学面でのサポート :

大学の語学堂で希望の語学プログラム(韓国語)を受講することができます。また、Language Exchange(英語その他)などの機会の提供もあり、語学力向上に大変役立ちました。

勉学面でのサポート :

レポートの書き方などを指導してくれるセンターがあります。

精神面でのサポート :

勉強や人間関係の悩みなどを解消するために、相談会から瞑想・ヨガイベントまで、様々なプログラムが校内で開かれています。

住居・生活面でのサポート：

寮に住んでいましたので、大学からも近く快適でした。

課外活動のサポート：

SNU BUDDYという留学生支援サークルに参加していましたが、韓国生活でわからないことなどがあればサポートしてくれました。

1-4. 神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか。

はい いいえ

2. 住居

2-1. 住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。（気をつけること等）

二人部屋の寮に住んでいましたが、ルームメイトと生活スタイルや性格が合わないことがしばしばありました。そのため、何度も険悪な仲となり、あまり良好な共同生活を送ることができませんでした。
そこで、アドバイスが二つあります。

①不満に思っていることについて、直接ルームメイトに言うのがよいときもあると思いますが、ルームメイトの態度が悪かったり話が通じない場合には、寮長に相談したり、3人で話し合いの場を持つのがよいと思います。

②ルームメイトとは毎日顔を合わせなければいけないものの、生活スタイルや性格が運よく合うとも限りません。最初から仲良くなりに行こうと気負わずに、同居人として接するのがよいと思います。

3. 生活について

3-1. 保険について

どのような種類の保険に加入したかを教えてください。

「たびほ」の海外旅行保険に加入しました。

また、上記以外で加入した保険があれば、ご記入ください。（留学先の国・大学が義務付けている保険等）

3-2. PC（パソコン）について

PCの保有の状況：日本から持参した 現地で購入した 保有しなかった

住居内のインターネットへの接続の可否：接続できた 接続できなかった

住居内でインターネットに接続していた場合、プロバイダー、料金等について記入してください。

ルーターを約25000ウォンで購入した以外には、特に費用はかかっていません。

大学でのPCの使用の可否：使用できた 使用できなかった

大学でPCを使用していた場合、施設の場所や日本語環境等について記入してください。

図書館や各学部の棟、学生会館などに設置されています。

3-3. 医療について

留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。

大学内にある保健診療所に通いました。現地の保険には加入していませんでしたが、治療費は、日本での保険適用の治療費とさほど変わりませんでした。

健康管理あるいは衛生面について特に注意すべきこと。

あまりマスクの習慣がありません。秋ごろに多くの学生が一斉に風邪にかかっていましたので、気をつけた方がよいです。

3-4. 銀行口座等について

留学先でお金を引き出せるように、どのように準備・手続きしましたか。
(現地で口座開設、キャッシュレス利用等)

初回の大学オリエンテーション限定で、パスポートのみで口座を開設することができたので、その場で開設しました。（通常は開設時に外国人登録証などの身分証が必要です。）

3-5. 異文化体験について

留学先の文化・社会（習慣の違い等）について記入してください。

私自身の想像以上に学生がスラングを使っていたことに驚きました。また、パククネ大統領の辞任に関連した事件について、日本では考えられないほどの大規模なデモが起こったこと、そしてデモに多くの学生がデモに参加していたことにも驚きました。民衆が立ち上がるという場面を初めて直接自らの目で見た貴重な経験でした。

大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトをもちましたか。

個人的な用事や各種イベントなどでコンタクトを取っていました。

課外活動（ボランティア、インターンシップ、アルバイト等）をしましたか。

しませんでした。

留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。（安全性、外国人への態度等）

外国人と(英語で)会話する現地人を街中で見かけることが圧倒的に多いです。神戸よりも国際色豊かな地域だと感じました。治安も特に悪い地域ではありませんでした。

3-6. 留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、教えてください。

しませんでした。

4. 経費について

4-1. 奨学金を受給していた場合、奨学金についてご記入ください。

(財団等名) JASSO, 70000 円／月

その他（渡航費等の支給）_____円

5. アドバイス及び感想

5-1. 現地で参考となった留学先国の情報（出版物、ホームページ）を記入してください。

NAVERなどでニュースを確認していました。
また、東亜日報や朝鮮日報などの新聞を図書館や寮などで読んでいました。

5-2. 日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。

ティッシュが日本に比べて高いので、持参するとよいと思います。また、カップ麺や食堂のメニューは辛いことが多いので、辛いものが苦手な人は日本からいくつか持参する方がよいと思います。

5-3. 留学することによって得られたことについて記入してください。（語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等）

※ 語学力については、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。

留学前：(TOPIK6級) 249 点→帰国後 (KLAT6級) 281 点

まず、今回の留学は、自身の将来のキャリアに大変役立つものとなりました。日本法と韓国法の違いを法分野ごとに学ぶことで、将来どの分野において、どのような形で韓国法務に携わっていくのか、より具体的に考えていくことができました。
次に、語学力(韓国語)については、留学前から最上級を取得していましたが、帰国後はさらに得点を伸ばすことができました。リスニングセクションにて満点をとり、ライティングセクションでの点が大幅に伸びました。また、発音や抑揚・会話の速度においては、ネイティブの水準に近づけることができ、友人や先輩・教授に評価をいただくことができました。
そして、異文化理解の点においては、現地学生そして留学生と留学生活を共にすることで、韓国文化と欧米文化の2つに触れることができました。

5-4. 振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。

現地人のルームメイトとの共同生活です。生活スタイルや性格が合わず、何度も険惡な雰囲気になりました。そのたびに寮長に相談したり、ルームメイト本人に直接話したりしました。ですが結局、共同生活の後半は、直接話し合うのも互いに嫌悪し、メモを残し合って必要最低限の会話のみする状態でした。

5-5. 留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。

取得単位数についての相談にも迅速に対応していただき、安心して留学先で受講申請をすることができました。

月次在籍確認書の確認メールも迅速に送っていただけたので、経済面でも安心して生活することができました。

5-6. 本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。

是非薦めたいと思います。

特に法学部生で韓国への留学を希望する方は、早めにプログラムに参加した方がよいと思います。韓国では法科専門大学院制度が始まったために、法学部が2018年には廃部されてしまうためです。

5-7. 留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。

（5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価）

- ・留学先大学の授業の「質」（内容、レベル等）に満足しましたか： 5
- ・留学先大学の学生サービスに満足しましたか： 4
- ・留学先の住み心地（安全性等）に満足しましたか： 4
- ・住居の「質」（広さ、料金等）に満足しましたか： 4
- ・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか： 4
- ・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか： 5
- ・留学全体の総合的な評価： 5

留学先大学：ソウル国立大学校

留学先での所属学部・研究科：法科大学

留学先での在籍身分：Exchange student

留学期間：2016年3月～2016年12月

神戸大学での所属学部・研究科：法学部

学年（出発時）：3

本報告書記入日：2016年12月22日

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名 (現地語・和訳)	教授名	時間数 ／週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含 めて教えてください。
1	債権各論	Si Hoon Park	2.5h	3	25	使用言語は韓国語で、75分の授業が週に2回あります。中間試験・期末試験があり、出席がとられます。 授業形式は神戸大学での民法の授業形式と似通っています。適宜判例と条文を確認しつつ、授業が進められます。日本の民法と比較しつつ学ぶとよりわかりやすいです。
2	刑法総論	Cho,Kuk	3h	3	35	使用言語は韓国語で、3時間の授業が週に1度あります。中間試験はありませんが、月に一度レポートの提出が求められます。期末試験もあります。判例をベースとした授業で、毎週膨大な量の判例を予習します。予習内容をもとに授業が進められ、指名される判例の要点を説明したりなどします。
3	民法総則	Si Hoon Park	3h	3	72	使用言語は韓国語で、週に1度、3時間の授業があります。中間試験と期末試験があり、出席がとられます。基本的には配布されるレジュメで学習をすすめますが、適宜基本書を参考にしていました。
4	商法総論	Song,Ok-Rial	3h	3	65	使用言語は韓国語で、週に1度、3時間の授業があります。中間試験と期末試験があり、各30%・70%の割合で成績評価がなされます。教授はほぼ期末一方勝負と仰っていました。期末試験はオープンブック形式で行われます。
5						
6						
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

クラスのサイズは様々ですが、特に2学期に受講した授業(上記3,4の科目)は学生が多く、大教室で講義がなされました。学生たちは勉強に大変熱心で、受講申請の時点から熾烈な競争繰り広げられるほどでした。授業中に質問する学生も多く、休み時間も学生間で議論しています。皆、高い成績(A+)をとろうと必死です。試験の際には、分からぬ韓国語がないか聞いてくださったり、答案を記述する際に漢字を使用してもよいなどの配慮をしてくださる先生もいらっしゃいました。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：約7万円

・住居費：(月額) 約15000円 × (留学月数) 10 ヶ月 = 約15万円・食費：(月額) 約30000円 × (留学月数) 10 ヶ月 = 約30万円

・保険料：約13万円

・その他：約25万円

合計：約90万円 (留学期間全体の費用)

その他　自由に記入してください。（800字～）

ソウル大学での10か月間の生活では、楽しいことも、辛いことも経験することができました。

・履修登録について

韓国の多くの大学では、履修登録は先着順のため、競争が大変熾烈です。学生が一齊に登録を開始するので、登録開始時間の数秒後には、人気の授業はすでに定員が埋まっています。実際に、私も2学期の履修登録では、受けたかった授業を登録し損ねました。ですが、授業を担当なさる教授にメールし履修の許可をもらうなどすれば、履修することができました。(ちなみに、履修登録期間に突然定員枠が増えることもあるので、履修し損ねた場合はチェックした方がよいです。)

・現地の学生、授業について

私が受けた授業の受講者は、私以外みな現地人でした。現地の学生たちは大変勉強熱心で、多くの学生が授業中に質問をしていました。皆、高い成績(A+)をとろうと必死です。授業内容は特に問題なく理解できましたが、試験では答案の量で他の学生と圧倒的な差が出てしまったため、問題集を解き、韓国語で専門知識をアウトプットすることに慣れる努力をしました。試験の際には、分からぬ韓国語がないか聞いてくださったり、答案を記述する際に漢字を使用してもよいなどの配慮をしてくださる教授もいらっしゃいました。

・語学について

韓国語については、留学前からTOPIKやKLATで既に6級を取得していましたが、留学終了間際に受けたKLATの試験で、さらに点を伸ばすことができました。リスニングセクションでは満点をとり、苦手だったライティングセクションでは大幅に点を伸ばすことができました。そして、試験では問われないスピーキングについては、友人や先輩・教授に、ネイティブに近付いたと評価をもらうことができました。おそらく、発音や抑揚・会話の速度がネイティブに近づいたことに加えて、現地の人々が実際に使っている口語や言い回しに慣れ親しんだことが、大きな要因だと思います。

英語については、SNU BUDDYという留学生支援サークルで仲良くなれた友人と毎日会話するにつれて、少し上達させることができました。最初は大変苦労しましたが、恐怖心や羞恥心を捨ててとにかく自分の意思を伝えることに徹しました。その結果、気が合う友人ができ、変な英語を話していないかという不安よりも、とにかく沢山仲良くなって笑い合いたい、という気持ちが先行するようになりました。

・友人、異文化交流について

授業や韓国語教室で知り合った友人もいましたが、多くの友人とはSNU BUDDYで知り合いました。SNU BUDDYには現地の韓国人と世界各国から集った留学生が参加していたため、韓国文化のみならず、欧米文化やその他各国の文化にも触れることができました。文化の違いに戸惑いを感じることも多々ありましたが、自分が今まで当然だと思っていたことが他国では当然でないこともあるということを身をもって知り、それを受け入れる努力をしたことで、戸惑うことが少なくなっていました。しかし、そうして文化の違いを知りそれを受け入れたうえで、さらにそれを実際の自分の具体的行動に落としこむことには大変苦労し、異文化を真に理解することの難しさを痛感しました。

私は幸運にも良い友人に恵まれて、共に様々なところへ訪れ、様々なテーマについて議論し合いました。多様なバックグラウンドを持つ多くの人々と交流できたことも一つの成果ではありますが、その中で、深い友情を狭いながらも築くことができたのが、私にとっては大きな成果です。

この報告書が少しでも役に立てば幸いです。

最後に、今回の留学を支えてくださった両親そして多くの方々に、感謝の意を述べたいと思います。